

2014年10月9日 西日本新聞掲載記事より～

「第5回 J.S.Bach クラヴィア作品全曲連続演奏会」(FFG ホール)

「バッハのみによる「管谷怜子ピアノリサイタル (J.S.バッハ クラヴィア作品全曲演奏会第5回)」(9月28日、FFG ホール)も能動的聴衆しか関心を示すことのないプログラムだったかも知れない。しかし《パルティータ第1番変ロ長調》、《フランス風序曲短調》や弦楽五重奏の伴奏による《ピアノ協奏曲第1番短調》などの管谷のバッハにかけると途な思いが結晶化した演奏とその必死な姿に、能動的聴衆のみならず会場の多くが感銘を受けた。揺らぎなどとは対極にある好ましい精確さに満ちた演奏でバッハの魅力を再認識させた。」

2012年7月21日 毎日新聞掲載記事より～

「第1回 J.S.Bach クラヴィア作品全曲連続演奏会」(日時計の丘ホール)

「ピアニストの優れた技術という点に関して、最近もう一つ印象深かったのは管谷怜子のピアノシモである。(中略)管谷のアプローチは圧倒的にモダンな方向で、ダンパーペダルで各音間の区切りの滑らかさを増す繊細なレガート踏法から、特定の音を強調する大胆な共振踏法まで存分に展開し、処理しきる。(中略)無音から薄霧のように浮かび上がる繊細なクレッシェンドは奇跡的な響きであった。」

管谷 怜子 (すがや りょうこ)

福岡市出身。福岡音楽学院にて学ぶ。福岡女学院高校、桐朋学園大学ディプロマコース修了。慶應義塾大学文学部(美学美術史学専攻)卒業。桐朋学園大学院大学修了。2000年より現在も世界的ピアニストである野島稔氏のもとで研鑽を積む。これまでにピアノを、小島ひろ子、白川奈緒子、末永博子、安井耕一、田部京子各氏に師事。室内楽を岩崎淑、岩崎洗、藤原浜雄、飯沼信義、新実徳英各氏に師事。

全日本学生音楽コンクール福岡大会第3位。ウィーン音楽コンクール特別賞。日本演奏連盟新人推薦演奏会にて黒岩英臣指揮のもと、ラフマニノフ「バガニョの主題による狂詩曲」を九州交響楽団と共に共演。2007年福岡銀行本店ホールにてソロリサイタル開催。

2011年にラズモフスキー四重奏団と共演、2012年4月には東京オペラシティ小ホールにて、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第2番を演奏し好評を得る。2012年7月からは、「日時計の丘ホール」にてJ.S.バッハ鍵盤楽器作品の全曲連続演奏会シリーズを始動した。2014年9月にはFFGホールにてリサイタル開催し、バッハ「ピアノ協奏曲第1番」をハイドン弦楽四重奏団と共演。2016年4月には東京にて初のソロリサイタル「現代ピアノで彩るスヴェーリンクからバッハまで」を、那須塩原市にて「バロックからロマン派への華麗なるピアノズムの変遷」を開催し、いずれも好評を博す。

現在は演奏活動のほかに、フリーゲル音楽教室(<http://music.geocities.jp/ryonmoko>)にて後進の指導に当たっている。九州・山口ジュニアピアノコンクール、ドリカム・ピアノコンクール審査員。カローザ会員。九州大学芸術工学部非常勤講師。

福岡ハイドン弦楽四重奏団プロフィール

1986年に(財)福岡文化財団、福岡相互銀行(現西日本シティ銀行)の後援を得て結成される。西日本シティ銀行のエントランスホールで毎月1回の定期演奏会「プロムナードコンサート」を行い、2013年9月で333回を数える。レパートリーは、ハイドンからショスタコーヴィチにおよび、日本ではじめてハイドンの弦楽四重奏曲の全曲演奏を達成。その他モーツァルト、ベートーヴェン、シューマン、メンデルスゾーン、ブラームスの弦楽四重奏全曲を演奏しており、福岡で唯一の常設の弦楽四重奏団として活動している。アマデウス、ヘンシェル、S AWAといった世界的な弦楽四重奏団とも共演し、好評を博した。1992年から1995年にかけて、世界的弦楽四重奏団、アマデウス・カルテットのメンバーであるN.ブレニン、S.ニッセル、M.ロベットの各氏の指導を受ける。

1st violin 八尋 祐子

国立音楽大学首席卒業。皇居桃華楽堂にて御前演奏を行う。1974年、文化放送音楽賞を受賞する。1976年には熊本ユースオーケストラのヨーロッパ演奏旅行にソリストとして同行。1978年より1980年にかけて九州交響楽団に在籍。1980年には熊本でリサイタルを行う。1986年、福岡ハイドン弦楽四重奏団を結成。第1ヴァイオリン奏者をつとめる。九州各地のオーケストラでの協奏曲の演奏、ソロ活動で活躍するかわら、後進の指導にも力を入れている。ヴァイオリンを兎東龍夫、鷺見三郎、鷺見四郎、江藤俊哉の各氏に師事。

2nd violin 李 軍

中国湖南省生まれ。国立武漢音楽学院ヴァイオリン専攻科に進む。1990年中国青少年選抜ヴァイオリンコンクール青年の部第2位受賞。大学在学時、武漢室内楽団代表。1991年国立武漢音楽学院ヴァイオリン専攻科を首席で卒業。中国広播交響楽団入団。香港音楽祭、マカオ音楽祭に参加。1995年来日、長崎市のNBCテレビにてデビュー、日本での演奏活動を開始。長崎県民文化祭、福岡市民芸術祭に参加するなど、ソロ、室内楽、オーケストラなど幅広く活動している。また、福岡県より派遣され、中国江蘇省南京市にて地元のオーケストラとの交流演奏会を行うなど、日中友好に尽力している。九州交響楽団ヴァイオリン奏者。

viola 黒川 律子

福岡教育大学中学校課程音楽科卒業。4歳よりヴァイオリンを始め、16歳でヴィオラに転向。2002年、全日本演奏家協会主催フランス音楽コンクール入選。2003年9月より一年間アフィニス文化財団の海外研修生としてウィーンに留学。これまでヴィオラを故 袴貞雄、故 平石謙二、岡田伸夫、ジークフリート・フューリンガー(元ウィーン国立音楽大学教授)、トビアス・リー(ウィーンフィル首席)の各氏に師事。1993年より(公財)九州交響楽団に在籍。アンサンブル K&K 主催。

cello 本田 實

作陽音楽大学専攻科卒業。1975年、九州交響楽団入団。1977年より1979年まで、福岡モーツァルトアンサンブルのチェロ奏者を務める。1986年、福岡ハイドン弦楽四重奏団を結成し今に至る。1997年、久留米にてボッケリーニのチェロ協奏曲を演奏。1998年、春日市にてリサイタルを開催、その演奏をライブCDとして制作。2000年、デンマークへ室内楽による演奏旅行を行う。九州一円での精力的な演奏活動の他、後進の指導にも力を注いでいる。

contrabass 武富 祐子

福岡県大野城市在住。12歳よりコントラバスを始める。福岡教育大学音楽科卒業。これまでに北崎千代佳、吉浦勝喜の各氏に師事。現在、九州各地で室内楽やオーケストラなどを中心に演奏活動を行っている。九州ベースクラブ会員。響ホール室内合奏団団員。